

シンポジウム①

座長： 東海大学医学部外科学系形成外科 教授 河野 太郎

BMC CLINIC 南青山 パラメディカル担当 看護師 大野 夏実

① 医療アートメイクの文献的考察—現状と課題

青山エルクリニック 院長 杉野 宏子

医療アートメイクには、眉やアイライナー等、メイクアップを長期間、維持する目的のものと、白斑や乳輪・乳頭の再建治療目的のマイクロピグメンテーションがある。医療知識のない施術者が行うことには、様々な健康被害の懸念がある。国内外における医療アートメイクの現状と基本的な知識について文献的考察を踏まえて解説する。

② 医療アートメイクの衛生管理

アピランスビューティクリニック 院長 堀口 和美

医療アートメイクは、美容と心身の健康に関連する医行為であり、深い専門知識と高い技術に基づく慎重な実践が必須である。特に衛生管理は、患者の安全と信頼性確保のために欠かせない。ここでは衛生管理について、スタンダードプリコーションを基盤に、その実践からサーベイランスまで概説する。

③ 医療アートメイクのトラブルと対処法

THE ARTMAKE TOKYO 院長 西川 嘉一

アートメイクは、他の美容医療とは独立した特殊な知識と技術を必要とする治療である。また、一度入れたアートメイクの除去はコストがかなりかかるため、患者の不利益につながるが多々ある。アートメイク初心者で発生しやすいアートメイクのトラブルとその予防法・対処法について解説をしていく。

④ 眉下切開と医療アートメイク

イートップクリニック 院長 増田 えりか

近年アートメイクの普及により、当院で眉下切開を受ける方の約半数にアートメイクが入っています。加齢による眉の下垂や、開瞼機能の左右差による眉の左右差、変色した色素などのお悩みに対する当院での治療、満足度の高い眉下切開術前の眉アートメイク等について、長い目で患者様と関わりたいアーティストに知っておいて貰いたい内容をお話します。

ランチョンセミナー①

共催： 株式会社ジェイメック

医療アートメイクに必要なスキンケア

株式会社ジェイメック コンシューマー事業本部 化粧品責任技術者 横山 ひかり

安全で満足度の高い医療アートメイクを行うためには、デザインもさることながら患者様の肌状態を適切に管理することも重要な要素となる。

レーザー治療機器メーカーとして治療前後スキンケアラインを開発する弊社の視点から、医療アートメイクの前後に必要なケアについて提案する。

ランチョンセミナー②

共催： 共催：株式会社 JK Japan

韓国アートメイクの世界的影響

PROH SCALP CEO マスター・ロー

SMPはアジア全体で需要が高まり、韓国を中心に普及しています。施術の効果は即効性があり、生活にほとんど影響を与えず、他の脱毛治療法よりも満足度が高いとされています。日本でもSMP技術の進化が期待され、数千万人以上の脱毛患者に新たな希望をもたらすことが期待されています。SMP頭皮刺青は自信の回復や外見の改善に役立つ一方で、個々人に似合うデザインと適切な技術が重要です。これらの利点と欠点を理解し、適切な処置を施すことが重要です。この点について、今までの実践から得た知識と経験に基づいて説明いたします。

韓国アートメイクに注目すべき理由

H-SSUP ACADEMY (本店) CEO パク・ミンヒ

韓国のアートメイクが世界的に注目される理由は、韓流の影響と韓国のトレンドの急速な変化、そしてアーティストたちの独創的な影響力と繊細な技術力にあります。これらの要素が韓国のメイクアップの将来をどのように形作るかを分析し、最新の韓国のアートメイクトレンド、特徴、そしてグローバルな美容産業での先導的な地位とその展望について説明します。

特別演題

座長： 東京皮膚科・形成外科 総院長 池田 欣生

特別演題① 個性を活かした骨格美人を作るアイブロウデザイン

ヘアメイクアップアーティスト vierge代表 嶋田 ちあき

眉はトレンドを明確に示す大切なパーツ。だからこそその時代もどのくらいの見せ方がベストなのかを誰もが模索している。しかし本当に自分に似合っているのかとなるとそこには不安しか残らない。トレンドを取り入れながら自分らしく、しかも違和感なく誰もが美しく魅力的に見える眉を作るメソッドが存在する。それが嶋田ちあきの考えるゴールデンアイブロウバランス。この講演ではメイクアップの視点から、メソッドの一部を紹介すると共に、アートメイクの施術に生かすためのヒントを公開。

特別演題② 医療アートメイクと法律について

一般財団法人 日本医療アートメイク財団 顧問弁護士 越田 雄樹

○アートメイク看護師の働き方について。フリーランスの働き方についてどう考えるか？

医療法上、医行為（医療機関・医師が行う「医業」に該当する行為）の委託／請負が認められていないことを踏まえると、雇用関係の下で対応すべき。ただし、雇用関係があっても看護師がどの程度医行為を行えるかは別問題である。責任問題は医師と患者／医療機関と医師・看護師の契約関係によって整理されるべきであるが、一義的には責任は医療機関が負うとされる方向にある。

○アートメイク看護師の働き方、仕組み作りについてどんな形がよいか？

看護師が働くにあたっての契約関連の整備、法的知識の習得は必須である。医療機関側も、法的な知識を踏まえた事業設計を行う必要がある。

シンポジウム②

座長： アピアランスビューティクリニック 院長 堀口 和美

HAAB medical group Head of Art Makeup 看護師 永森 友美

① アトピー患者へのリップアートメイク

THE ARTMAKE TOKYO 看護師 櫻井 グリコ

アートメイクは、皮内に色素を着色し、眉毛、アイライン、リップなどのデザインと色味を補完して容姿を整える美容医療です。リップのアートメイクは特に、薄い色素の追加やメラニンの沈着による唇の色調整が可能で、現代の美容医療で唯一唇の色を変える技術となっています。最近では、アトピー既往の患者からのリップアートメイクの需要が増加しています。アトピーによる口唇炎で血色感が失われたり、口紅が荒れることから、リップアートメイクはアトピー患者にとってコンプレックスの解消手段となっています。ただし、施術時に通常的手法では審美が損なわれる可能性があるため、医師と技術者は患者の唇を注意深く見極め、最適な手法を提供する必要があります。

② 技術の提供は当たり前！技術力よりも大切なプロフェッショナルなデザイン力

BMC CLINIC 南青山 看護師 多田 亜樹博

眉のアートメイクにおいては、技術力とデザイン力が不可欠です。デザインの選択によって、相手に与える顔の印象が変わり、希望する印象を演出できます。そのためにもアーティストは自身の眉デザイン力だけに留まらず顔全体的なバランスも考慮しお客様の期待に応える提案ができるように努めるべきです。決まった形だけでは無くオリジナルなデザインを提供出来る様になる事が重要です。美容業界の経験から築き得たデザイン力向上のための練習方法をお話し出来たらと思います。

③ 美容のアートメイクとブレストアートメイクの違いと現状

JSKINクリニック 看護師 岩元 淑子

美容医療におけるアートメイクが普及する中、乳がん患者へのアートメイク、いわゆるブレストアートメイクが注目されるようになった。しかしながら美容中心のものとは異なり、ブレストアートメイクの場合は乳がん患者の特異性に留意することや、主治医との連携が不可欠となる。また、提供できる医療機関は限られており、実際に施術できる場が不足している。このように、美容と医療のアートメイクの違いと現状について、これまでの経験や事例を紹介する。

一般演題

座長： イートップクリニック 院長 増田 えりか
イートップクリニック 看護師 伊澤 沙羅

① 眉アートメイクのカラーチェンジと効果的な修正方法

渋谷amiクリニック 宮形 由紀

日本では、20年以上前からサロンなどでアートメイクが行われていた。その方々の眉は、時間経過とともに赤・オレンジやグレーに褪色している事が多かった。現在ではこれらの褪色した眉色に対して、補色色素での修正を行なっている。眉アートメイクに対しカラーチェンジを実施し、有効性の有無を検証しながら修正方法を導き出したい。

② リップアートメイクの解剖的考察と色彩のコントロール

東京皮膚科・形成外科 金津 由紀恵

リップアートメイク施術において、上口唇の色調が下口唇に比べて、一部黒ずんでいる患者様が多く存在する。このようなケースでは上下の口唇を希望される明るい色調へ合わせることに難渋することが多い。今回、口唇部の解剖学的検討から、くすみ・黒ずみの原因を探り、治療戦略を立案、医師の許可を得て実施したところ、比較的良好な結果が得られたので報告する。